

働く母のニーズにこたえる 複数園運営で安定化図る

社会福祉法人 わかば福祉会
理事長

小島 伸也 氏



育園に就職しました。当時は「保育士」という言葉はなく、また男性職員も珍しい時代で、「保母に準ずる者」という位置づけでした。

東京で私立と公立の保育園に11年間勤め、両親から手伝って欲しいと言われて1988年に富山に戻りました。翌年に園長の父が急逝、90年に園長に就きました。

1997年には学童保育も始めておられます。

園児のお母さんから「子供が小学校に上がったら、仕事を辞めなくてはいけない」と聞きました。富山市では各校区の婦人会の皆さんが中心となり、午後5時頃まで預かってくれる「地域児童健全育成事業」を運営しておられますが、両親がフルタイムで働きながら子育てをするには不十分です。

私は東京で放課後や夏休みに小学生を預かる「学童保育」を見ていたのでその必要性を感じ、突貫工事でコンテナを並べた部屋を作り、4月からスタートしました。現在では市内3カ所で学童保育を行っています。

ニーズを捉えた事業展開ですね。

私としては違和感はないのですが、当時は珍しく見られました。子育ては母親がやるものとの考えが強く、学童や延長保育に対し、「親に甘すぎる」「子供が可愛そう」「非行化する」などの批判を受けたこともあります。

当園で延長保育が認可されたのは1983年ですが、開園当初から、迎えの時間が遅くなるお子さんはお寺で預かったり、時には泊まっていたりもいました。

一子、親、職員、三位一体の幸せ

法人の理念でも「親子の幸せに貢献する」と謳っています。保育園は子供の最善の利益だけが求め

られがちですが、本来、良い園のためには「子供の幸せ」「親の幸せ」「職員の幸せ」が三位一体です。親が幸せになる支えをしないと、家庭も子供も幸せになれません。

また、福祉の職場では聖職者意識の下に、職員が犠牲になることも少なくなく、過酷な労働条件で辞めた保育士が、再び保育園に戻ってくることはありません。職員が働き続けられる環境を整備し、処遇改善していくことも必要です。園を増やされるねらいは。

社会福祉法人は1法人1施設の傾向があり、園長は経営者家族で、その他のポストも長年同じ人という家族的な経営になりがちで、わかば保育園もそうでした。ベテラン職員が多くなると、人件費比率が高くなってしまいます。

園内からは抵抗がありましたが、富山市の2つの市立保育園の民営化を受託しました。園長には職員から登用しましたし、園長代理や主任ポストへの昇格の道筋もできました。新たに若い保育士を雇うので、人件費比率も下がりました。

結果として、職員の処遇改善と経営の安定につながっています。職員の教育はどうされていますか。

次代の経営者を育てるため、経験年数5～10年の職員を対象とした「未来委員会」という勉強会を私が主宰しています。また各園長が新人職員を対象に「若手ゼミ」を行っています。それぞれ毎月開

略歴

1955(昭和30)年1月生まれ。富山市出身。東洋大社会学部、都立練馬高等保育学院2部卒(男性保育者1期生)。東京で保育園勤務を経て、88年わかば保育園園長代理、90年園長。96年(社)わかば福祉会理事長に就任。2011年ははら保育園園長、14年からしんでん保育園園長。現在、県保育連絡協議会会長、県社会福祉法人経営者協議会会長、全国保育協議会副会長。

いています。

また、女性中心の職場なので、出産や子育ての時期には配慮しています。子育ての経験は仕事に直結しますし、ベテランの職員がいると安心感があります。

一県外進出も探る

今年4月から「子ども・子育て支援新制度」がスタートしました。

新制度の柱の1つは「幼保一体化」で、幼稚園と保育園の特長を取り入れた「認定こども園」の普及です。当法人の3園も認定こども園に移行しました。保育園でも教育ができるようになったのです。とはいえ、特殊な教育をするのではなく、よく噛んで食べる、日本語を覚えて会話するといった年齢にふさわしい発達課題、教育課題がその後の成長の基礎になります。

少子化に伴う児童数の減少にはどう対処しますか。

確かに富山市は待機児童ゼロですが、わかば保育園のある市南部など、保育所が一杯の地域がいくつかあります。一方、しんでん保育園では30人程の空きがあります。そこで都会で実施されている「駅型保育」をできないかと考えています。通勤途中の駅などで子供を預かり、施設に移動して保育する形態です。しんでん保育園は八尾中核工業団地へ向かう途中にあるので、できるのではないかと。

また、「事業所内保育」を導入



する動きもありますが、そうした企業へ園バスを出して、児童を受け入れることも考えられます。預ける方にとっても、保育専門の施設でのびのびと過ごさせた方が安心だと思うのです。

もう1つ、北陸新幹線の開業に伴い、首都圏進出を考えています。待機児童が深刻な都会では保育の民営化が進んでおり、昨年から横浜市の委託事業に応募しています。今までにない取り組みですね。

社会福祉法人が所在地から出るのは異例ですが、一般企業では当たり前です。職員の能力向上にもなるでしょうし、少子化が進み、富山の園が縮小したとしても働き続ける場の確保になります。チャレンジしたいと思っています。

保育の現場からひとこと。

未だに富山県では、女性は子供が生まれたら育児に専念し、その後はパートでもとの考えが根深く、妊娠、出産による離職率は他県よりも高いです。次代を担う若い働き手を支援できる体制にならなければ、優秀な人材が流出するばかりです。経営者の皆様には女性の活躍につながる色々な処遇改善や、父親の育児参加の支援をぜひお願いします。

法人概要

社会福祉法人 わかば福祉会

設立：1968(昭和43)年4月わかば保育園開園、1969年10月社会福祉法人設立

所在地：富山市堀川町455
事業内容：保育園、放課後児童健全育成事業(学童)

従業員数：約140名
保育事業収入：4億5,335万円(2014年3月期)
施設：わかば保育園、はりはら保育園、しんでん保育園、わかばにこにこ園

付帯施設：学童堀川園、学童布瀬園、学童はりはら園、わかば子育て支援センター

URL：http://www.wakabahoikuen.jp

富山市内で4保育園を運営されています。

寺の住職だった父が、地域の要望を受け1968年、境内に乳児専門の「わかば保育園」を開設したのが始まりです。当初は定員40人でしたが、現在は100人を超え、0歳児保育や延長保育、休日保育などに対応しています。

2003年には、富山市の保育所民営化にあたり、県内の公立保育園の民営化第1号となる「はりはら

保育園」を受託しました。09年にも「しんでん保育園」を受託。今年4月には、わかば保育園の新築移転に伴い、旧園舎を活用して小規模保育の「わかばにこにこ園」を開設しました。

小島理事長は東京で保育士を経験されてから、当園へ入られました。

開園時、私は中学生で、園児達と兄弟のように過ごしました。それが楽しかったのか、後継ぎの意識はなかったのですが、自然と保